

柿 生 文 化

柿生郷土史料館 情報・研究誌
住所:川崎市麻生区上麻生 6-40-1
柿生中学校内
電話:044-988-0004(柿生中学校)
http://www.kakio-kyodo.com
第63号

現代人への提言

☆☆☆「御嶽講フォーラム」を終えて ☆☆☆

絆のある地域社会の創造を目指して

急速に発達した文明社会がもたらしたものは
今、地域社会に必要なものは

人類の直接の祖先といわれるクロマニヨン人が出現したのは、今から約5万年前のことでした。

以後、現代に至るまで、人々はゆっくりと文化を創り出し、新しい文明を創り上げてきました。そして人間のあるべき姿を思惟し、哲学や宗教が生まれ、さらにはいかに便利で快適な生活を獲得するかということや、より高い芸術性などを求めて、文明が築き上げられてきました。

人類史上、人々の生活に大きな変化をもたらされた出来事のひとつに、18世紀の後半、イギリスから起こった産業革命があります。各種の動力機械が発明され、その結果、製品が大量に生産されるようになりました。このシステムは、21世紀の今日に至るまで継続しています。

特に最近の科学技術の進歩は目覚ましいものがあります。私たち現代人はどっぷりとその恩恵に浴しているというわけです。しかし、よく考えてみますと、文明を創り出している人々を除いて、使用するだけの、一般多数の人々は、簡単にその文明の利器を手に入れてしまっているのです。それも実に速いスピードで、新しい機種が次々と登場し、それに乗せられ受動的な毎日を送っているのが現状です。さらにこの機械文明は便利である反面、人と人との関係を奪ってしまいました。昔はもっとゆっくりとした時間が流れていたはずですが。人類は何万年の間、穏やかな時間の中で、衣・食・住の多くは自分の手で作りながら、そして人間同士が触れ合いながら信頼関係を築いてきました。

私たちの祖先は、嘗て、厳しい自然環境の中で互いに助け合い、“生きる”という営みの中で強い絆も生まれてきました。そして村落独自の文化も育まれてきました。文化は決して一人の人間が作るものではありません。価値を共有できる複数の人々がいるからこそ文化としての形ができるのです。

先日、柿生郷土史料館主催で「シンポジウム『御嶽講』フォーラム」が、村上直氏(法政大学名誉教授)、服部博美氏・服部一喜氏(両氏とも御嶽神社御師さん)、小倉美恵子氏(「オオカミの護符」著者)らの講師と約120名の参加者を持って開催されました。麻生区の上麻生、仲村亀井講中を始め宮前区の土橋講、平講、馬絹講の各講中の方々、遠く小平市役所からもお越しいただきました。参加された皆様方一様に「御嶽講」や、御嶽信仰のあゆみ、その意義について知り、再確認されていらっしゃいました。

このフォーラムは、かつて村落において重要な、生活や信仰の支えであった「御嶽信仰」を題材に、関東周辺の多くの村々で信仰を背景にして育まれてきた「絆」について考えようと企画したものです。今回は多くの方々と、多少なりとも同一の思いを共有できたのではないかと考えております。

新・旧の住民がこれからも手を取り合って、しっかりとした「絆」のもと、新たな文化の創造を目指していきたいものです。(文:板倉)



講師の皆さん



講師のお話聞き入る参加者

柿生郷土史料館の活動にご支援いただいている法人をご紹介します

☆☆☆柿生郷土史料館友の会法人会員(7月10日現在)☆☆☆

★月読神社 ★琴平神社 ★王禅寺 ★常安寺 ★浄慶寺 ★麻生総合病院 ★アルナ園 ★柿生恒産
★虹の里養護施設 ★フィッシング王禅寺 ★たま日吉台病院 ★川崎信用金庫柿生支店 ★かじのや
★JAセレス川崎 ★志田電子製作所 ★朝日ホーム ★柿の実幼稚園 ★柿生保育園 ★山義産業
★観財 ★栄和 ★孝友商事 ★大平屋 ★ゲオホールディングス ★リック設計企画 ★粕谷住宅資材
★青戸建材店 ★スズユウ商事 ★広東商事 ★ノジマNEW鶴川店 ★丸和企画印刷 ★プライマリー
★石野電気柿生店 ★とん鈴 ★尾作住宅 ★尾作材木店 ★奈良工業 ★北島工務店 ★麻生自動車
★ティーエムコーポレーション ★松屋 ★ガスト柿生店 ★小料理わかば ★レストランベル ★カラオケゆう
★リフォームイケダ ★志村建設 ★荒川電気工事 ★ゆりストア王禅寺店 ★誠和産業 ★三共エステート
★レストヴィラ王禅寺 ★菊川園 ★神奈川トヨタ自動車 ★花島商事 ★美容院ルシル ★サイトー農芸
★まきば ★栄運輸
(順不同・敬称略)

シリーズ

「麻生の歴史を探る」 第33話

亀井六郎 ～亀井の館～

小島 一也 (柿生郷土史料館相談役)

昭和47年当時、柿生中学校のPTA会長だった私は、亀井城について次のように広報誌に寄稿していました。

前九年、後三年の役(1085年)に、源氏の棟梁源頼義・義家の軍に従い紀州熊野の鈴木・亀井の一族は遠く奥州に遠征して戦った。その軍功によって鈴木一族が得た恩賞の地のひとつが、奥州から比企、府中を経て鎌倉へ向かう街道筋の武蔵麻生の地であったという。

中央の統治力が衰え、相次ぐ軍乱が続くこの時代、各地に所領を求めての武士団が発生するが、紀州熊野の鈴木一族は故郷熊野信仰の社を祀り、館を建てこの地に土着する。それは今から数えて約900年前ということになる。残された資料とてなく勝手な想像だが、その後この武蔵麻生の館は全く振るわなかったに違いない。それというのも保元平治の乱(1159年)において、鈴木・亀井一族は源氏(義朝)に味方して平氏(清盛)と戦ったことが考えられるからである。義朝が討たれて世は平氏のものとなったのは歴史的事実。源氏に与した一族が栄えるはずはない。

春が来、冬が訪れて幾星霜。平氏に隷属しながら武蔵麻生に地に細々と暮らす熊野の鈴木・亀井の一族。亀井の館は夏草が生い茂り、朽ちた熊野の社には閑古鳥が鳴いたに違いない。だがうらぶれた館に年老いた武将が一人、本領熊野と密かに気脈を通じていたとみるのはどうか…

春は巡ってきた。頼朝の旗上げは治承4年(1180年)。それより先、故郷熊野にあつて虎視眈々、平家打倒を鞍馬の義経とその期を狙っていた鈴木家の宗家、藤白の一族がいた。時は来た。奥州より馳せ参じる源九郎義経、これを府中亀井の庄で迎える兄は鈴木三郎重家、弟は亀井太郎重清、そしてご宗家の大事と白髪に鉢した麻生亀井館の主もそこにいたに違いない。

文治元年(1185年)平家は滅亡。義経の活躍は目覚ましく、鈴木・亀井の一族はさぞや名誉の中にあつたに違いない。だがそれもつかの間、頼朝・義経の確執は思わぬ方向に発展する。この短い幾年かが麻生亀井の館の栄華の時期であつたのではなからうか。

頼朝の逆鱗に触れた義経は平泉で横死(1189年)。股肱の臣亀井六郎がこの世にあるはずはない。かくして鈴木・亀井の一族は衰退、麻生亀井の館は再び草生す山里に戻っていった……

この麻生亀井の地が後三年の恩賞とするのは登戸伊藤翁の説で、史実に基づくものではありません。だがその後、鶴川団地には悪源太義平(頼朝の兄)が後三年の役で得たとする「大蔵館」の伝承があること、柿生中学校考古学部の研究や海南市を訪れてみてその歴史や藤井神社の宮司さんの話、何よりも柿生に多い鈴木姓、等々が「ありうること」を物語っています。

ただ亀井の館を亀井六郎の城とするのは間違いです。六郎は推定29歳で討ち死にしており、その短い年月は義経とともに戦場と逃避行の明け暮れで、六郎にとっての亀井の館は、故郷熊野を遠く離れた武蔵の一族の里にあつて、疲れを癒す憩いの館であつたのではないのでしょうか。

参考文献:「稲毛郷土誌」「日本国史」「海南市史」



専修寺(海南市にある鈴木家の菩提寺)



亀井の館想像図(佐藤英行画)



今も残る枡形への尾根道

シリーズ
私の少年時代(4)

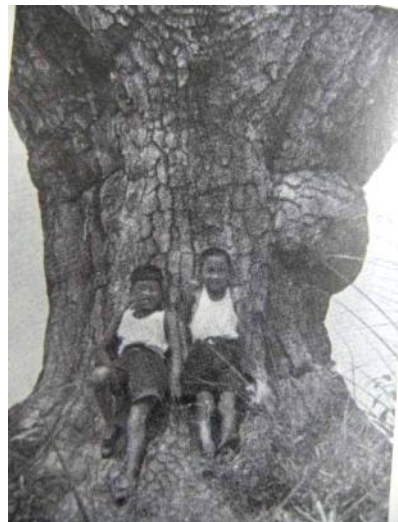
並木の大松と尾根道

杉本長治 (元麻生文化協会会長)

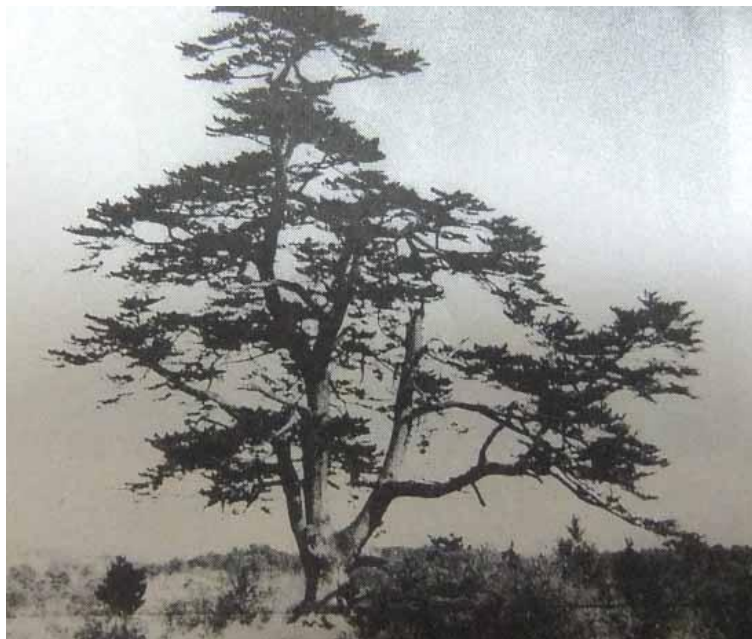
麻生区の名松としては「弘法の松」が有名であるが、「並木の大松」は口の端にのぼりません。

並木の大松(写真左)は、昭和40年頃まで早野と鉄村(横浜市)との境の尾根路にありましたが、不動産会社の宅地開発のために切り倒されてしまいました。

幸いなことに、当時、柿生中学2年生の市原さんが丹念に調べて「年輪は850年以上」と記録を残しています。



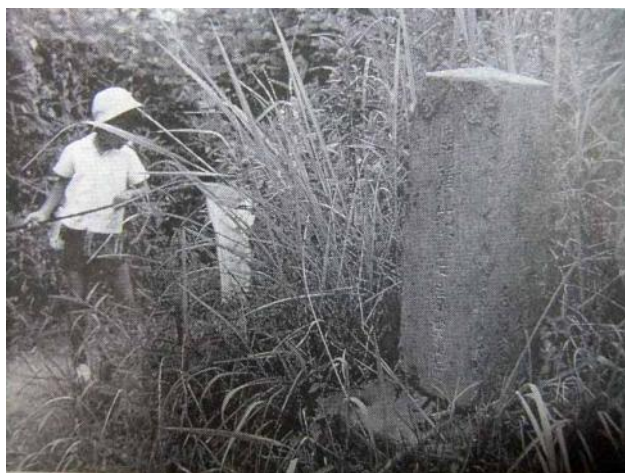
並木の大松の根元と子供



これにより鎌倉時代からの松であった事がわかります。

また、元禄15年(1702)の検地水帳に「並木松間数百七十二間」とあります。約310メートルにわたって松並木が続いていたのではないのでしょうか。

百合ヶ丘坂上の三叉路に写真下のような道標が草むらの中にありました。



百合ヶ丘三叉路にあった道標

正面には「馬頭観音」の文字が刻まれ、側面に「右 登戸江戸道」と記されているように、この道は早野から王禅寺を通り、江戸へ向かう重要な道でした。土地の古老達は「鎌倉道」とよんでいました。

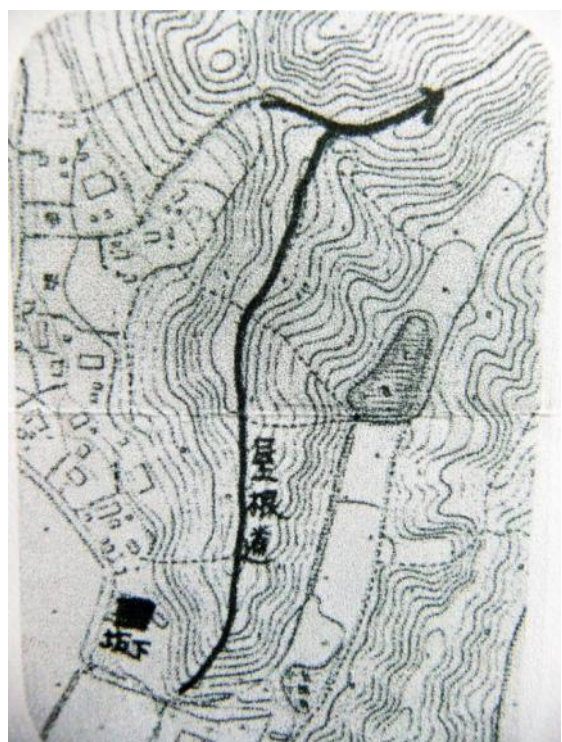
この尾根道は早野の下地区を蛇行して下り、出雲神社の脇を通り平地に出て、鶴見川を渡り、神奈川の方に通じる大事な道であったといわれています。

その道筋にあった庚申塔(宝永4年)は、早野の守谷清、杉本武雄さんの手

により子ノ神社に移されましたが、百合ヶ丘の三叉路にあった馬頭観音の道標の現所在は不明です。地域として開発と同時に公的施設に保存すべきであったと悔やまれます。

早野の上地区に「坂下」と言う屋号の家があります。背後は確かに山であるけれど坂はありません。おかしいと思い当主にお尋ねすると「脇の消防小屋の所に尾根に登る大事な坂道があったのだよ」と現場で教えてくれました。「馬の背に荷物を積んで、保木(横浜市)に行ったこともあるよ」とのお話。今は尾根道へ上り降りする人はいないので、尾根に登る坂道らしい面影は全くありません。

昔の人々にとって尾根道は重要な道でした。しかし平地の道が整備された現在はその存在すら知られていません。



「坂下」と尾根道

参考文献:「七つの池とともに」 杉本長治

夏休み特別企画

集まれ！小・中学生、もちろん大人の参加もOK！！

地域の人たちと

郷土の竹細工を楽しもう

日 時 8月5日(月) 午前10時より
8月8日(木) 午後2時より

会 場 柿生郷土史料館玄関前

内 容 竹細工 (かざ車・竹笛)
ストロー細工 (エビ 等)持ち物
その他

タオル・水筒・筆記用具

- ・竹はすべて郷土の竹を使います
- ・2日間とも2コースに分けて行います。両日参加して2種類の竹細工にチャレンジすることもできます
- ・所要時間は約1時間半です
- ・事前申し込みは必要ありません
- ・参加費は無料です
- ・問合せ 044-988-0004 (柿生中学校)



柿生郷土史料館開館日のご案内

◎開館日：偶数月は土曜日、奇数月は日曜日

8月 3・10・17・24日(毎土曜日) 注：8月31日は休館 9月 8・15・22・29日(毎日曜日)

◎開館時間：午前10時～午後3時

柿生郷土史料館8～9月の催物ご案内

第4回 実物のミニ歴史資料展 (8月、9月)

「幕末海防への世論と発禁本」

主な展示資料 『戊戌夢物語(高野長英著)』『海外新話(嶺田楓江著)』『海国兵談(林子平著)』

内容 ・幕末、日本の庶民は中国で発生したアヘン戦争など海外事情を知っていたのか？

・これらの書物はなぜ発禁となったのか

公開日 8月 3・10・17・24日(毎土曜日) 9月 8・15・22・29日(毎日曜日)

展示品解説 8月17日(土)午前10時30分～12時00分

第43回 カルチャー・セミナー (9月)

「上麻生日光台遺跡と古代麻生の姿」

講師 浅賀 貴広氏 (盤古堂主任研究員・日光台遺跡発掘調査団)

日時 平成25年 9月29日(日曜日) 13時30分より

会場 柿生郷土史料館

内容 *5期に渡って発掘調査されてきた結果を現地調査に当たってきた浅賀貴広氏が語る古代麻生の姿とは
*発掘された緑釉(りよくゆう=緑色の釉薬をかけて作られた土器)土器が物語るものは